

2013 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会 主な Q & A

- Q 新幹線のご利用状況について、第 2 四半期の実績や下期の見通しをどのように考えているか。
- A 第 2 四半期は、東日本大震災の反動の影響が落ち着いてきたほか、九州新幹線の開業景気の反動が出ている可能性もあり、収入が前年を若干下回ったことから、足元は弱含んで推移したと考えている。また、新幹線のご利用は景気動向にやや遅行して連動する傾向があるため、下期の見通しについては、楽観視できないと考えている。
- Q LCC 就航や増便の影響についてどう見ているのか。
- A 現時点では減収要因としてお示しするほどのマイナス影響は想定していないが、今後 LCC の輸送力が増えれば少なからず影響が出てくる可能性があると思っている。当社としては、価格競争ではなく、フリークエンシーの高さなど新幹線の特性をブラッシュアップしていくとともに、座席の快適性といった LCC に対する新幹線の競争優位性をアピールしてまいりたい。
- Q 来年度以降の配当方針はどうか。
- A 基本的には安定的な配当をしていきたいと考えているが、次期中期経営計画における利益計画や設備投資、長期債務等のバランスを勘案しながら、株主還元のあり方を議論することとなるため、具体的な配当方針については現時点で未定である。
- Q 近畿車輛の株式取得の狙いと今後の展望についてはどうか。
- A 車両メーカーの持つ技術や車両製造の分野における知見を習得することが目的である。すでに技術提携や人事交流をはじめしており、鉄道運営上のメリットのある提携としていきたい。例えば、近畿車輛が開発した蓄電池車両の走行試験を当社事業エリア内で行っており、効果を見極めた上で改善につなげていこうとしている。
- Q 今後、沿線人口の減少などにより経営環境が厳しくなる中でも、新たなポテンシャルや方向性が見出せそうな事柄があればお示し頂きたい。
- A エリアごとに、地域に根ざした企業をモデルとしつつ、地域の方々と協同して活動していくことを通じて、あるべき鉄道会社の姿を模索していくとともに、“成長の種”を見出してまいりたい。

以上